

令和6年度 新潟市バイオリサーチセンター利用状況報告書（概要版）

令和7年4月30日

【室別利用数・率】

	利用月数	利用率 (%)
共同利用研究室－１	１２ヶ月	１００％
共同利用研究室－２	１２ヶ月	１００％
共同利用研究室－３	１２ヶ月	１００％
共同利用研究室－４	１２ヶ月	１００％
共同利用研究室－５	１２ヶ月	１００％
共同利用研究室－６	１２ヶ月	１００％
共同利用研究室－７	１２ヶ月	１００％
共同利用研究室－８	１２ヶ月	１００％
共同利用研究室－９	１２ヶ月	１００％
共同利用研究室－１０	１２ヶ月	１００％
共同利用研究室－１１	１２ヶ月	１００％
研究・実験室－１	１２ヶ月	１００％
研究・実験室－２	１２ヶ月	１００％
研究・実験室－３	１２ヶ月	１００％
研究・実験室－４	１２ヶ月	１００％
分析測定室－１	１２ヶ月	１００％
分析測定室－２	１２ヶ月	１００％

【月別利用数・率】

[illegible]

令和6年度 収納事務実施報告書

■ 利用者別料金(減免)内訳表

部屋名	利用期間	月額(A)	利用月数	利用料計	減免適用期間(B)	減免割合(C)	減免月数	減免額(D) (A)×(B)×(C)	利用料収入額 (A)－(D)
共同利用研究室-1	R6.4.1～R7.3.31	246,600	12ヶ月	2,959,200	12ヶ月	30%	12ヶ月	887,760	2,071,440
共同利用研究室-2	R6.4.1～R7.3.31	56,800	12ヶ月	681,600	0ヶ月	0%	0ヶ月	0	681,600
共同利用研究室-3	R6.4.1～R7.3.31	56,800	12ヶ月	681,600	0ヶ月	0%	0ヶ月	0	681,600
共同利用研究室-4	R6.4.1～R7.3.31	61,400	12ヶ月	736,800	12ヶ月	30%	12ヶ月	221,040	515,760
共同利用研究室-5	R6.4.1～R7.3.31	61,400	12ヶ月	736,800	0ヶ月	0%	0ヶ月	0	736,800
共同利用研究室-6	R6.4.1～R7.3.31	56,800	12ヶ月	681,600	0ヶ月	0%	0ヶ月	0	681,600
共同利用研究室-7	R6.4.1～R7.3.31	64,200	12ヶ月	770,400	0ヶ月	0%	0ヶ月	0	770,400
共同利用研究室-8	R6.4.1～R7.3.31	53,800	12ヶ月	645,600	0ヶ月	0%	0ヶ月	0	645,600
共同利用研究室-9	R6.4.1～R7.3.31	61,400	12ヶ月	736,800	0ヶ月	0%	0ヶ月	0	736,800
共同利用研究室-10	R6.4.1～R7.3.31	56,800	12ヶ月	681,600	0ヶ月	0%	0ヶ月	0	681,600
共同利用研究室-11	R6.4.1～R7.3.31	58,000	12ヶ月	696,000	0ヶ月	0%	0ヶ月	0	696,000
研究・実験室-1	R6.4.1～R7.3.31	61,400	12ヶ月	736,800	12ヶ月	30%	12ヶ月	221,040	515,760
研究・実験室-2	R6.4.1～R7.3.31	61,400	12ヶ月	736,800	12ヶ月	30%	12ヶ月	221,040	515,760
研究・実験室-3	R6.4.1～R7.3.31	33,800	12ヶ月	405,600	12ヶ月	30%	12ヶ月	121,680	283,920
研究・実験室-4	R6.4.1～R7.3.31	22,400	12ヶ月	268,800	0ヶ月	0%	0ヶ月	0	268,800
分析・測定室-1	R6.4.1～R7.3.31	56,800	12ヶ月	681,600	0ヶ月	0%	0ヶ月	0	681,600
分析・測定室-2	R6.4.1～R7.3.31	46,600	12ヶ月	559,200	0ヶ月	0%	0ヶ月	0	559,200
合計				13,396,800				1,672,560	11,724,240

令和6年度 設備管理業務(定期作業)報告書

業務名			基準周期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
防災設備 管理業務	自動火災報知設備	1回／6ヶ月				○							○		
	防排煙制御設備	1回／6ヶ月				○							○		
	誘導灯及び誘導標識	1回／6ヶ月				○							○		
	ガス漏れ火災警報設備	1回／6ヶ月				○							○		
	消火器	1回／6ヶ月				○							○		
電気設備		6回／年		○		○			○		○		○		○
清掃管理 業務	定期清掃	1週1回	5	4	4	5	4	4	5	4	4	4	4	4	5
	廃棄物収集運搬処理	1週1回	5	4	4	5	4	4	5	4	5	4	4	4	4
	床ワックス清掃/カーペット清掃/PS清掃	1回／年					床ワックス清掃、 カーペット清掃、 PS清掃								
環境衛生 管理	施設点検管理	1回／月	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	飲料水水質検査	1回／年									○				
	受水槽清掃/屋上加湿補給槽清掃	1回／年									○				
設備機器 保守管理業務	給水、排水系統及び衛生器具等保守点検	1回／月	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	湯沸器等の点検	1回／月	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	湧水ピット点検	1回／年				○									
昇降機保守点検業務		1回／3月			○				○			○			○
自動ドア保守点検業務		2回／年				○							○		
その他 作業	除草・植栽作業	3回／年			○		○			○					
	非常階段清掃/屋上清掃	年1回							非常階段 清掃	屋上清掃					
	窓ガラス清掃	年1回													○
	エアコンフィルター清掃	年1回			エアコン フィルター 清掃										
	消防訓練	年1回								○					

※ 作業を実施した月に「○」、臨時点検は「△」、同一月に複数回の場合は「回数」

総括・評価

定例作業：

令和6年度設備管理業務（定期作業）を委託した業者は、前年度より引き続き委託した業者で占めており、点検等の作業もスムーズに行われ、全体の作業内容や実施状況は良好でした。

臨時/その他作業:	
5月	空調設備改修工事を行いました。
6月	空調設備改修工事を行いました。
	共同利用研究室-9のGHP室外機の修理を行い改善されました。(越配・パナソニック)
	センター敷地内の除草作業を行いました。(坪井造園)
7月	空調設備改修工事を行いました。
	共同利用研究室-3のGHP室外機の修理を行い改善されました。今後同一エラーが出た場合は、新しいGHPに交換するまで冷却水の補充により様子を見る予定です。(越配・パナソニック)
	全研究室の換気扇清掃を行いました(21台)。(アンドヴィーナス)
	電力設備工事(計器用変成器取替作業)を行いました。(東北電力ネットワーク)
8月	センター内のワックス清掃及びカーペット清掃を行いました。(ラミコジャパン)
	センター敷地内の除草作業を行いました。(坪井造園)
9月	非常階段清掃を行いました。(アンドヴィーナス)
10月	消防訓練を行いました。(協力:小林防災商会)
	屋上の清掃を行いました。(アンドヴィーナス)
	センター敷地内の除草作業を行いました。(坪井造園)
	空調設備改修工事を行いました。
11月	空調設備改修工事を行いました。
	貯水槽の清掃及び加湿補給層の清掃を行いました。(つちだライズ)
	1階製氷機付近の水道パッキンの交換作業を行いました。(越配)
1月	消防設備点検を行いました。(小林防災商会)
	ガスメーター交換工事を行いました。(越後天然ガス)
	2F女子トイレウォシュレット取替を行いました。(越配)
2月	非常階段照明3か所の電球交換を行いました。(斎藤電機)
	LED化工事を行いました。(ヒキンエンジニアリング)
	電気温水器用立水栓取替を行いました。(越配)
3月	窓ガラス清掃を行いました。(中央管財)

令和6年度 清掃業務（定期作業）報告書

部屋名等	作業名	基準周期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ポーチ	洗浄樹脂作業	1回／年					○							
風除室	洗浄樹脂作業	1回／年					○							
通用口	洗浄樹脂作業	1回／年					○							
廊下・階段（1階～3階）	床面ワックス等塗布	1回／年					○							
男子トイレ（1階・3階）	床面ワックス等塗布	1回／年					○							
女子トイレ（1階・2階）	床面ワックス等塗布	1回／年					○							
湯沸しユニット（2階・3階）	床面ワックス等塗布	1回／年					○							
共同利用研究室－1	床面ワックス等塗布	1回／年					○							
	カーペット洗剤洗浄	1回／年					○							
共同利用研究室－2	床面ワックス等塗布	1回／年					○							
共同利用研究室－3	床面ワックス等塗布	1回／年					○							
共同利用研究室－4	床面ワックス等塗布	1回／年					○							
共同利用研究室－5	カーペット洗剤洗浄	1回／年					○							
共同利用研究室－6	カーペット洗剤洗浄	1回／年					○							
共同利用研究室－7	カーペット洗剤洗浄	1回／年					○							
共同利用研究室－8	床面ワックス等塗布	1回／年					○							
共同利用研究室－9	床面ワックス等塗布	1回／年					○							
共同利用研究室－10	床面ワックス等塗布	1回／年					○							
共同利用研究室－11	床面ワックス等塗布	1回／年					○							
研究・実験室－1	床面ワックス等塗布	1回／年					○							
研究・実験室－2	床面ワックス等塗布	1回／年					○							
研究・実験室－3	床面ワックス等塗布	1回／年					○							
研究・実験室－4	床面ワックス等塗布	1回／年					○							
分析測定室－1	床面ワックス等塗布	1回／年					○							
分析測定室－2	床面ワックス等塗布	1回／年					○							
事務室・会議室	カーペット洗剤洗浄	1回／年					○							

※ 作業を実施した月に「○」

総括・評価

今年度は、年に1回の床ワックス清掃、カーペット洗剤洗浄を行いました。前年度同様、床に薬品のシミが残るということもなく比較的綺麗に使用されていると思われます。全体の作業内容や実施状況は良好でした。

産学連携コーディネート事業報告書

事業名	新潟バイオリサーチパーク株式会社																
(I) 実施状況 ①当センター利用者からの技術的な相談や研究者・専門家探索のコンサルティング コンサルティング件数 15 件 ②当センター利用者以外の食品会社等からの相談、研究者・専門家探索コンサルティング件数 コンサルティング件数 47 件 <table border="1"> <tr> <td>機能性評価試験に関する相談</td> <td>10 件</td> </tr> <tr> <td>機能性食品に関する相談</td> <td>1 件</td> </tr> <tr> <td>食品分析に関する相談</td> <td>6 件</td> </tr> <tr> <td>食品表示に関する相談</td> <td>0 件</td> </tr> <tr> <td>食品安全に関する相談</td> <td>0 件</td> </tr> <tr> <td>産学連携に関する相談</td> <td>12 件</td> </tr> <tr> <td>その他、情報交換等</td> <td>18 件</td> </tr> </table> ③自主事業の活動の中での、新潟市バイオリサーチセンターの PR 活動 自主事業として実施している食品ヒト試験を主力とする機能性食品評価事業や大学との連携を推進する産官学連携推進事業を基盤として、新潟市バイオリサーチセンターの役割を対外的に発信し、地域および県外への認知向上を図ってまいりました。特に、企業や研究機関との連携においては、センターが持つネットワークや研究支援機能を積極的に紹介し、技術相談や分析支援の窓口としての位置づけを進めて参りました。 また、食品開発展（東京）やフードメッセ（新潟）、健康ビジネス協議会、H・P未来産業創造研究会などの展示会・研究会等に参加し、当センターや自主事業の情報提供を行う事で一定の成果として入居率100%を維持しております。 今後も、自主事業の成果発信を通じてセンターの価値を広く発信し、入居促進や地域産業支援の中核拠点としての機能強化を目指してまいります。 ④令和6年度事業計画の活動について（年度当当初の目標と実績） 【具体的な取り組みとして】 1. センター利用者からの技術相談への対応と連携機関の紹介 当センターでは、利用企業や関係機関からの技術的な相談に対し、適切な専門家や研究機関との連携を通じて、共同研究や受託研究の形成を促進しました。たとえば、マイコロジーテクノ株式会社とは、菌株の管理や培養に関する相談を受け、技術支援として委託先の紹介を行いました。将軍まいたけジャパン株式会社に対しては、新製品開発の一環として、ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ株式会社（HMT）の技術を紹介し、今後の研究展開への橋渡しを行いました。また、株式会社ブルボンとは、機能性食品に関連するGI試験の実施に向けたスケジュール調整や倫理委員会手続きへの対応、さらに				機能性評価試験に関する相談	10 件	機能性食品に関する相談	1 件	食品分析に関する相談	6 件	食品表示に関する相談	0 件	食品安全に関する相談	0 件	産学連携に関する相談	12 件	その他、情報交換等	18 件
機能性評価試験に関する相談	10 件																
機能性食品に関する相談	1 件																
食品分析に関する相談	6 件																
食品表示に関する相談	0 件																
食品安全に関する相談	0 件																
産学連携に関する相談	12 件																
その他、情報交換等	18 件																

はメタボローム解析に関する情報提供など、製品開発を見据えた支援を行いました。さらに、一般財団法人日本食品分析センターとは定期的に情報交換を実施し、地域食品業界の技術的な相談に連携して対応しました。こうした取り組みを通じて、センター利用者の課題解決を支援するとともに、研究連携の創出に貢献しました。

2. センター外の企業等からの技術相談への対応と連携

センター外からの技術相談にも対応し、外部機関とのネットワークを活かして支援を行いました。株式会社トップライズからは、油の劣化評価に関する相談や SDS-PAGE の実施機関の紹介、さらにはナタマメ製品に関する成分分析の依頼があり、日本食品分析センターや HMT への橋渡しを行うとともに、試験デザインや分析方法の技術支援を行いました。新潟 TLO からは、血中水素測定に関するセンサ技術・分析装置に関する問い合わせがあり、地域の医療機器業者や新潟大学と連携して課題解決の提案を行いました。さらに、株式会社スペックやファビウス株式会社といった県外企業からもセンターの研究支援に対する関心が寄せられたため、センターの役割やネットワークについて情報提供を行い、新潟地域への展開を後押ししました。

3. 地域産業支援（農業活性化研究センターや新潟薬科大学との連携）

地域農業や食品産業の支援を目的に、農業活性化研究センターと連携し、産業活性化に取り組みました。「いもジェンヌ」のビタミン C 含有量を焼成条件や圃場・年度ごとに分析し、栄養機能食品の基礎資料を取得しました。さらに、新潟薬科大学の食品分析学研究室と連携し、地域農家の紹介を通じてトマト研究を支援しました。加えて、食品・発酵工学研究室に腸内細菌叢検査を委託し、食品による腸内細菌の変化に関するデータも取得しました。これらの取り組みを通じて、行政・農業・研究をつなぐ中核的な役割を果たしました。

4. 医療・健康分野の拠点設置と連携強化

新潟大学医学部内にある「ブルボン健康科学研究所オープンイノベーションセンター」の拠点機能を活用し、医療・健康分野における技術相談および共同研究を推進しました。具体的には、新潟大学や中央大学の研究者と連携し、整形外科分野における腸内細菌叢試験に関する準備資料の作成支援など、臨床研究に向けた具体的な対応を実施しました。

5. HACCP 導入・食品安全関連支援

HACCP 導入および食品安全に関する支援については、従来、社内の HACCP 専門家が対応していましたが、当該社員の退社により、今年度は具体的な活動が困難となりました。ただし、退社後に当該社員が個人事務所を設立し独立して活動を継続していることから、今後は外部連携としての協議を進め、支援体制の再構築を図っていく方針です。

6. 包括連携に基づく情報発信・PR

令和 6 年度は、新潟薬科大学との包括連携を基盤に、研究成果やセンターの活動内容の情報発信に取り組み、地域の関係機関や産業界とのネットワークを強化しました。食品分析学研究室との連携により農産物分析の研究支援を進めたほか、トリュフラボ社が実施する臨床試験においては、便サンプルの菌叢解析支援を実施しました。また、HACCP や品質管理に関する企業支援にも同大学の専門家と連携して取り組みました。情報発信の場としては、「食品開発展」および「フードメッセ in 新潟」に出展し、オルトメディコ、RD サポート、TES、ノーステック財団、HMT など多くの企業・団体と情報交換を実施しました。HMT とは業務連携に向けた協議を行い、来年度の講演開催も決定するなど、今後の連携に向けた具体的な動きも進められています。また、中央大学・新潟大学・福島県立医科大学との科研費共同プロジェクトにおいては、臨床研究や受託分析機関との調整業務を担い、研究体制の整備にも貢献

しました。さらに、新潟大学 医歯学総合研究科との連携により、血糖値抑制を目的とした機能性食品開発にも取り組むなど、産学官連携のハブ機能としての役割を果たしました。

7. 健幸づくり応援食品制度への支援

さつまいもを活用した栄養機能食品の開発を進める中で、新潟市の「健幸づくり応援食品制度」の活用も視野に入れた検討を行い、地域ブランドの向上に向けた取り組みを行いました。

8. 機能性食品評価事業を通じた支援

GI 試験や腸内菌叢解析などの科学的支援を継続し、企業の製品開発における根拠構築を支援しました。具体的には、株式会社ブルボンの GI 試験支援、トリュフラボ社の臨床試験支援、トップライズ社の特許申請に向けた成分分析支援など、複数の企業に対して実践的な技術支援を行いました。また、沖縄科学技術振興センターからも、当センターが展開する機能性食品評価事業に関心が寄せられ、情報交換を実施しました。

以上の取り組みにおいては、自主事業との連携を図ることで、事業者の課題解決を支援しながらセンターの利用価値を高め、新潟薬科大学との産官学連携の強化を引き続き進めております。これにより、今後も入居率 100%の維持に努め、地域における研究・産業支援拠点としての機能をより一層高めてまいります。